

グローバル人材育成に向けた教育改革

神戸大学教育担当理事・副学長

藤田 誠一

神戸大学は、「自ら地球的課題を発見し、その解決にリーダーシップを発揮できる人材」（「課題発見・解決型グローバル人材」）の育成を目標とし、平成28年度から一連の教育改革を実施します。

第一に、教養教育の改革を行います。学士課程の学生が卒業時に身につけるべき共通の能力、すなわち「複眼的に思考する能力」「多様性と地球的課題を理解する能力」「協働して実践する能力」を、「神戸スタンダード」※として定め、これらの能力を身につけさせることを目的として、新しい教養教育を開始します。自らの専門分野以外のディシプリンを学ぶ「基礎教養科目」では「複眼的に思考する能力」を、グローバルイシューや歴史・文化などの多様な分野を学ぶ「総合教養科目」では「多様性と地球的課題を理解する能力」を、また3・4年次に専門分野を異にする学生が学際分野について学ぶ「高度教養科目」では「協働して実践する能力」を身につけることをねらいとし、4年間を通じて学ぶ教養教育のカリキュラムを提供します。

第二に、クォーター制を導入します。神戸大学のクォーター制は、前期・後期の授業期間をそれぞれ半分に分け、各8週で授業を行う制度です。週1回又は週2回8週の授業による、集中的な学修を可能とするとともに、学生が特定のクォーターを「ギャップターム」として設定し、短期留学や、海外インターンシップ等の学外活動に参加しやすい環境を醸成します。今般、文部科学省の大学教育再生加速プログラムに採択された「神戸グローバルチャレンジプログラム」では、1・2年生が設定したギャップタームの期間に学生が海外インターンシップ等の国際的なフィールドで行う自主的な活動を、「グローバルチャレンジ実習」として単位の認定を行います。

第三に、全学部の新入生を対象とした「初年次セミナー」を新設します。初年次セミナーでは、新入生が教員や他の学生との対話を通じ、各学問分野において大学生として必要となる自律的な学びの姿勢を育むことを目的としています。この授業は、神戸大学の使命・ビジョン、大学生として守るべき社会的マナー等の共通項目を組み込み、各学部の導入教育として開講します。

これらの改革を通じ、課題発見・解決型グローバル人材の育成を推進します。

※神戸スタンダード

➤複眼的に思考する能力

専門分野以外の学問分野について基本的なものの考え方を学ぶことを通じて複眼的なものを見方を身につける

➤多様性と地球的課題を理解する能力

多様な文化、思想、価値観を受容するとともに、地球的課題を理解する能力を身につける

➤協働して実践する能力

専門性や価値観を異にする人々と協働して課題解決にあたるチームワーク力と、困難を乗り越え目標を追求し続ける力を身につける

お問い合わせ先

神戸大学学務部教育推進課共通教育グループ（教育改革担当）

stdnt-kaikaku@office.kobe-u.ac.jp 078-803-7641

グローバル人材育成に向けた 教育改革

第15回神戸大学長定例記者会見
2015年9月18日

教育改革の目標

自ら地球的課題を発見し その解決にリーダーシップを発揮できる グローバル人材の育成

神戸大学は、自ら地球的課題を発見しその解決にリーダーシップを発揮できる人材（課題発見・解決型グローバル人材）の育成を学士課程の教育目標に掲げます



教養教育の改革(1)

神戸スタンダード

全学部学生を対象とする教養教育において
神戸大学の学生が卒業時に身につけるべき共通の能力

複眼的に思考する能力

専門分野以外の学問分野について基本的なものの考え方を学ぶことを通じて複眼的なものを見方を身につける

多様性と地球的課題を理解する能力

多様な文化、思想、価値観を受容するとともに、地球的課題を理解する能力を身につける

協働して実践する能力

専門性や価値観を異にする人々と協働して課題解決にあたるチームワーク力と困難を乗り越え目標を追求し続ける力を身につける

教養教育の改革(2)

4年間を通じた教養教育

基礎教養科目 1～2年次

他分野の学問の基本的な知識及び「ものの見方」を学び、自らの専門と他の学問体系との違いを理解することを目的とする

総合教養科目 1～2年次

多文化に対する理解を深め、多分野にまたがるグローバル・イシューを学ぶことで、学生の複眼的なものの見方、課題発見力を養成することを目的とする

高度教養科目 3～4年次

異なる専門分野の学生が、協働して学際的な課題を学ぶことで、学生の自主性、コミュニケーション能力、チームワークなどの社会的能力、課題解決能力を養成することを目的とする

教養教育の改革(3)

神戸スタンダード

卒業時に身につけるべき3つの能力

複眼的に思考する能力

協働して実践する能力

多様性と地球的課題を理解する能力

4年間を通じた教養教育

基礎教養科目

他分野学生用に開講される
人文系 社会科学系
生命科学系 自然科学系科目

総合教養科目

グローバルイシュー ESD
多文化理解 キャリア科目
神戸学 自然界の成り立ち
等

高度教養科目

学際 ESD
社会(地域)連携科目
学内サマースクール 等

クォーター制の導入(1)

クォーター制

前期・後期の授業期間をそれぞれ半分に分け
各8週で授業を行う制度

現在

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
前期						後期					
授業				夏休み		授業				春休み	

週1回16週の授業
(試験期間を含む)

平成28年度から

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
前期						後期					
第1クォーター		第2クォーター		夏休み		第3クォーター		第4クォーター		春休み	
授業		← ギャップターム (例) →				授業		授業			

週1回8週の授業
又は
週2回8週の授業
(試験期間含む)

クォーター制の導入(2)

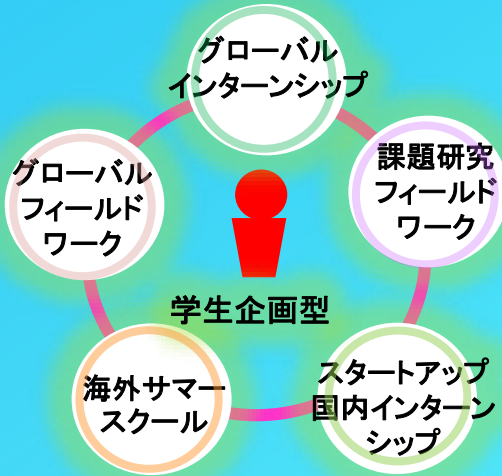
メリット

1. ギャップタームを利用した留学や海外インターンシップ等の**学外活動への参加促進**
2. **短期集中的な学修**



神戸グローバル チャレンジプログラム

国際的なフィールドでの
多様な学外学修コース



学内体制（全学体制）

- グローバルチャレンジ委員会によるコースの選定「グローバルチャレンジ実習」として単位化
- コーディネーターやアドバイザー教員による学生への事前・事後学修、サポートの実施
- 神戸大学基金、同窓会、後援会からの支援

本プログラムによる効果

- 1・2年生を対象とすることによる学びの動機づけ
- 学生の主体的な学修の促進
- 国際的なフィールドでの更なる活動にチャレンジする精神を育成
- 英語力の向上

神戸大学教育改革

クォーター制
(ギャップターム)
の導入

神戸スタンダード
の設定

初年次セミナー
の開講

ナンバリングの
導入

教養教育科目の再編成

・基礎教養科目 ・総合教養科目 ・高度教養科目の新設

卒業時の目標

「神戸スタンダード」を
身につけ課題発見・
解決型グローバル人材
となること

卒業時

水準3

水準2

水準1

水準0

3～4年生

チームワーク力

自己修正力

課題挑戦力

プログラムに
参加した学生
が最終的に
身に付ける
3つの能力を
ルーブリック
で測定

1～2年生
ギャップターム



初年次セミナーの開講(1)

初年次セミナー

- ・ 新生が教員や他の学生との対話を通じ、各学問分野において大学生として必要となる **自律的な学びの姿勢を育む**
- ・ 各学部において、**全学部共通の項目を盛り込んだ、各専門分野の導入教育**として実施
- ・ 学生が**学士課程を通じた学修目標と学修計画**を立てることを目標とする



初年次セミナーの開講(2)

概要

- 《受講対象》 **全学部 1年生必修**
- 《開講時期》 1年次第1クォーター
- 《共通項目》
- ・ 神戸大学の使命・ビジョン
 - ・ 各学部、学科の学問的・社会的使命
 - ・ 各学問分野におけるアカデミックルール
 - ・ 図書館、ラーニングコモンズの活用
 - ・ 大学生が守るべき社会的マナー 等
- 《特徴》 神戸大学オリジナル教材を使用